

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価計画

学校名	唐津市立佐志小学校			
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上推進校として、校内研究に職員全員で取り組み、国語科の学力向上を図ることができた。読み取る力、書く力など一定の成果を上げることができた。 ・児童の学びを止めないために感染症対策には十分に注意を払い、体験活動や外部講師の依頼などできる範囲で行うことができた。児童の健康と学びを両立する取り組みを継続して行う。 ・校内支援委員会や、のびっこ研（教育相談）など児童の支援にチームで取り組んだ。また人権教育を中心に据え、いじめや差別のない学校にするための努力を続けた。気になる児童には専門機関と連携を図りながら支援をしていく。 ・校内研究を国語科から算数科にし、個別最適な学習のためのタブレット端末活用研修などを行い、授業改善につなげる。 ・引き続き、人権・同和教育の研修を推進し、「自分も他者も大切に作る児童の育成」を目指す。 			
2 学校教育目標	「自分も他者も大切に作るさしっ子の育成」～「気づき、考え、実行する」子ども～			
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの心を豊かにする・・・善悪を考えた行動を心がけ、集団の一員として協力・協調できる態度の育成をめざす。 ○子どもに学力をつける・・・基礎的・基本的な学習・生活習慣の定着を図り、思考力・表現力の向上をめざす。 ○家庭・地域との連携を図る・・・保護者に寄り添い、地域とともに子どもを育む学校をめざす。 			
4 重点取組内容・成果指標	(1) 共通評価項目			
	重点取組			主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・定期的な校内研修を実施する。 ・全職員、研究授業を実施する。 ・OJTを有効に活用し、若手の育成を充実させる。	まなび部
	○学習習慣及び基礎基本の定着	○始業時間になったら席につき、静かに待つ児童80%以上。 ○期末テストの漢字、計算テストにおいて、クラス平均70%以上を目標とする。 ○「話し合い活動のよさを感じる」と回答した児童70%以上。	「授業が終わったら次の学習の準備とトイレを済ませる習慣をつけさせる」「5分前行動を意識させる」ために、声掛けと指導の徹底を図る。 ・朝の国語スキルタイムでは、全学年共通の教材を使用し、言語事項の習得を図る。また、算数スキルタイムでは、ドリル等を活用した基本的事項の確認や、テスト・宿題の解説を行う。 ・タブレットを活用してドリル学習に取り組む。 ・授業では、交流活動の場面を設定し、その中で様々な考えに触れさせたり、自分の考えを伝えさせたりする。	まなび部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○アンケート結果から、自分や友だちの良さや、違いを認めるよさを回答した児童が80%以上。	・人権・同和教育の視点で授業を行う。人権の日集会、「ありがとうの花束」などを計画的に実践し、自他を大切にすることを育む。 ・道徳では、話し合いなどを通して自分事として捉えられるような授業実践を行う。	なかま部(人権・同和教育)
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「学校に行くことが楽しい」と回答する児童が80%以上。 ○いじめ防止等について組織的対応ができていますと回答した教員80%以上。	・月1回の「心のアンケート」等で、児童の実態を把握する。 ・「子ども理解研修」を月1回実施し、組織的対応を図る。 ・事業発生時には「いじめ防止対策委員会」を開き、組織的に早急に対応する。 ・SCなどと連携して、いじめ対応の研修を行う。	教育相談
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・自らの成長を実感できる学習過程を取り入れた授業づくり ・薬物乱用防止教室、租税教室、漁業体験活動など、様々な業種の外部人材と児童が触れ合う機会を設け、学習を深める。	教務
	○集団における受容的、寛容的な態度の育成	○縦割り班活動後の振り返りで、活動に対して肯定的な回答をした児童が80パーセント以上を目指す。 ○Q-Uにおける満足群の割合を昨年度以上とする。	・自分も他者も認めるために「たてわり伝言板」を活用・放送し、校内に知らせる。 ・児童相互のトラブルに対し全職員が丁寧な関わりや対応を行う。 ・仲間づくりを中心に、支持的風土のあるクラスづくりをする。	なかま部(特活)
●健康・体づくり	○「望ましい生活習慣の形成」	○生活習慣アンケートより、早寝・早起き・朝ごはんの実践ができていますと回答した児童が80パーセント以上を目指す。	・学校生活全体を通して適切で計画的な学級指導 ・委員会活動にあるあいさつ運動の取り組み ・生活満点一週間の取り組み ・学校だより、保健だよりの発行による保護者への啓発	くらし部(生活)
	○児童一人一人の体力の向上	○運動の習慣づけと体力の向上を目指し、体を動かすことが好きな児童を80パーセント以上にする。	・「スポーツチャレンジ」への参加を推進 ・なわとびタイム、マラソンの実施 ・外遊びの推進	くらし部(保体)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日を設定(金曜日)する。 ・教材の共有、役割分担し、過重な負担を回避する。 ・校務用パソコンのデータの整理を行い、必要なデータは誰もがすぐに探して活用できるようにする。 ・行事後の反省をもとに改善すべきことをみつけ、行事のスムーズ化を目指す。 ・職員会議終了時刻を設定し、時間内で終わるように、提案方法を簡略化する。(ペーパーのみ、検討事項のみ協議等) また、各部会で協議し、必要なことを全体で協議する。	教頭
	○新しい教育に対応するための研修やOJTの推進	○週1回の学年会の確実な実施。 ○年間を通じ校内研究授業 全職員実施。(中堅、ベテラン教員の模範的授業参観) ○GIGAスクール1人1台端末の利活用の研修を全職員で行う。	・専門部会、学年部会における若手教員への具体的指導、相談体制を確立する。 ・校内研究会を活用した若手教育への働きかけを全職員が意識する。また、時間割を調整し、初任者や若手教員に対して授業参観の機会を作る。 ・短時間でもお互いに授業を見合う時間を設定し、持続可能な授業を行う。	教頭
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				
	重点取組			主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○インクルーシブ教育の構築のため、特別支援教育に関する意識が向上した教員80%	・通常学級における特別支援教育の考え方に基づいた児童の理解と支援についての見識を深める。 ・年度当初に個別の支援計画・指導計画を活用して共通理解を図り、個に応じた対応を図る。	特別支援CO
○地域との連携	○◎地域人材マップの作成と人材を活用した授業の推進	○人材を活用した授業を、各学年、年間2つ以上実施する。 ◎地域の良さを知ったという児童が80パーセント以上。	・これまでの実績をもとに、担任や地域人材をつなぎ、担任が授業実践をする。また、必要に応じて新しい人材を活用した授業を作る。	教頭・教務
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育				
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 			